

# 造林作業の省力化への取組と地域への普及

網走西部森林管理署 西紋別支署

## □現状

人工林が主伐期に移行しているため、主伐量の増大に伴い、今後再造林量が増加することが想定されるが、林業従事者の高齢化による労働力不足、苗畑の供給力不足による苗木確保の困難化、事業量の増大による経費の増加が危惧される。

## □課題と目的

再造林を確実に進めるため、労力を軽減し、低コスト化した造林作業の確立が求められる。そのため、低密度植栽試験を行い、技術の検証を行う。また、取組の情報を地域へ積極的に発信していく。

## 平成30年度の主な取組

### 【省力化への取組】

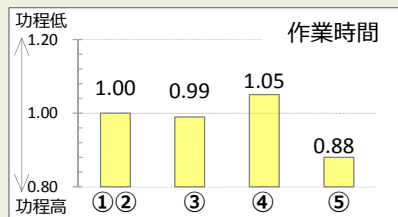
#### ◎低密度植栽試験地の調査

○下刈工期調査：プロット毎に下刈作業時間を計測したところ、2000本植区(概要図①)と比較して、1650本植区(同⑤)では作業時間が短く、作業工期が上がるという結果になった。これは苗間が狭いため苗木が視認しやすいこと、残幅が広いことによると考えられる。

○生長量比較調査：プロット内の苗木100本の根元径・苗高を計測したところ、植栽密度による差は見られないが、コンテナ苗の生長率が裸苗より高いことを確認した。

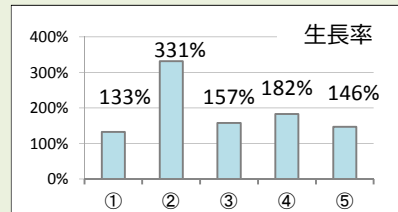
○広葉樹発生状況：残幅に残存していた広葉樹が生長しており、うまく活用することで広葉樹資源の確保につながる可能性がある。

下刈工期調査結果

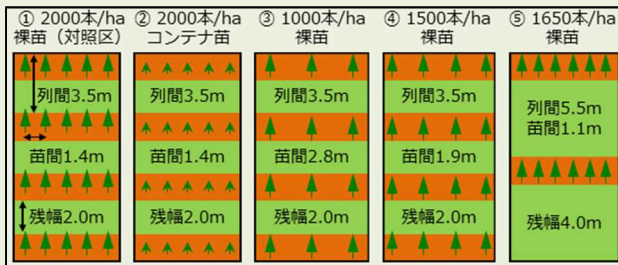


\* 2000本/haを1.00とした時の作業時間を比較

生長量比較調査結果



\* 前年からの苗木体積の増加割合を比較



低密度植栽試験地の概要図

\* H28春トドマツ植栽



広葉樹発生状況

### 【地域への情報発信】

#### ◎情報誌「にしもん森林だより」の発行

平成30年4月から1年間で計8回、支署の各種取組を掲載した情報誌を発行し、森林室や管内各市町村・森林組合等に配布した。

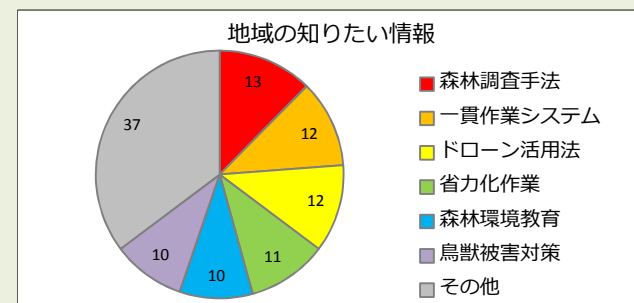


#### ◎アンケート調査の実施

地域の意見を取り入れて「にしもん森林だより」の記事に反映していくため、9月に配布先に対して発行頻度や役立ち度、情報源などについてアンケート調査を行った。

知りたい情報について調査したところ、どの項目にも関心はあるが、特に森林調査手法や一貫作業システムなどに関心が高いということが分かった。

アンケート調査結果



## 今後の取組

☆低密度植栽試験地の調査によるデータ収集を継続するとともに、一貫作業システムの普及に向けてメリット・デメリットを把握する。

☆「にしもん森林だより」の発行を継続し、アンケート結果を踏まえて、地域に役立つ情報の発信をさらに進める。

## 取組の目標

省力化した造林作業が地域に普及し、地域林業の発展に寄与する。